

シンポジウム1「次世代中医学を目指して：我々は何をすべきなのか？」

フジ虎ノ門整形外科病院 統合医療センター

関隆志

漢方というわが国独自の伝統医学が大勢を占める中、日本中医学会は中国の伝統医学の現状を率先して紹介してきた。今年は武漢で発生したコロナウイルス感染症に対する中医学の具体的な対応について、貴重な情報を我が国にもたらした。さらには、中国に中医学を学ぶために留学した留学生との交流の場を提供した。今後もこれらの役割は重要であり、全うしていく価値があるだろう。

日本の漢方しか知らない人々への中医学の啓蒙活動も継続していくことで、天然物を利用した日本の伝統医学を深化させることが期待できる。そのなかで、中医学と漢方の共通点と相違点を明確に示すことは、広く世界の伝統医学の発展にも寄与するかもしれない。

また、研究者に対しては中国や韓国のように、難治性疾患に対する新たな方剤、鍼灸治療法を開発する姿勢をうながしていくことで、わが国に中医学を根付かせるのみならず、発展させることに繋がるのではないだろうか。。